

国語科 学習指導案

I 単元 くらべ上手になろう (『アップとルーズで伝える』)

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

説明的な文章における事例や、指示する語句、接続する語句の役割についての知識及び、それらを用いる技能

②思考力、判断力、表現力等

考えの段落、対比的に書かれた事例の段落といった、複数の段落相互の関係に着目し、筆者の説明の工夫を捉える力

③学びに向かう力、人間性等

文章の内容に興味をもち、友達と関わり合いながら、進んで説明的な文章を読んだり、対比的に説明することのよさを生活に生かしたりしようとする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)

ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

(3) 単元の価値

本単元は、『アップとルーズで伝える』(光村4年)を読み、対比的な説明を用いて二つの事物を紹介する「比べる紹介文」を書く学習である。その価値は以下のとおりである。

『アップとルーズで伝える』は、メディアが映像や写真を用いる際、目的に合わせてアップとルーズを使い分けているということについて、サッカー中継の事例を用いて説明する文章である。また、「比べる紹介文」とは、本教材に用いられている対比的な説明の仕方を用いて、「絵の具と色鉛筆」のような身近にある二つの事物について、その長所と短所を対比して紹介する文章のことである。

本教材では、読み手がアップとルーズの違いを対比的に捉えられるよう、それぞれの事例が段落を分けて書かれている。その中でも④⑤段落は、前半に長所、後半に短所が書かれているため、長所と短所を対比的に捉えられるようになっている。子どもたちには、学級活動等の中で、複数の案の中からよりよい案を選んで決定する機会がよくある。しかし、その決定の根拠として、片方の案の長所のみ、あるいは短所のみに着目することが多く、双方の案の長所と短所を対比しながら考えることには不十分さがある。そのような子どもたちにとって、本単元の学習は、複数の段落相互の関係に着目し、筆者の説明の工夫を捉える力を養うことにつながる。

本教材では、筆者の考えを述べるために、アップの事例とルーズの事例がそれぞれ用いられている。また、④⑤段落では「しかし」「でも」という接続詞が用いられ、⑥段落では、「このように」という語句が用いられている。アップとルーズの具体的な事例が書かれていることにより、筆者の考えが読み手にとって納得しやすいものになっている。また、指示する語句や接続する語句により、文同士の逆接のつながりや、その段落がそれまでのまとめとなっていることが明確に分かるようになってきている。以上のことから、本単元の学習は、事例の役割や、指示する語句、接続する語句の役割についての知識及び、それらを用いる技能を身に付けることにつながる。

子どもたちは日頃、テレビや新聞等のニュースで多くの映像や写真に接している。しかし、アップとルーズという手法で映像や写真が用いられていることについて知る機会はほとんどない。また、これまでの学習で生き物やことわざ等を紹介する文章を書いてきたものの、二つの事物を対比的な説明の仕方を用いて紹介する文章を書く経験はまだなく、新たに取り組んでみる価値のある言語活動であると考えられる。以上のことから、本単元の学習は、子どもたちが文章内容に興味をもち、進んで説明的な文章を読んだり、対比的に説明することのよさを生活に生かしたりしようとする態度を養うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「きょうみをもったことをしょうかいしよう」(『ウナギのなぞを追って』)における、調査報告文に書かれた事例の叙述を、図や写真と対応させながら読んで、筆者の考えを捉え、自分が興味をもったところを中心に要約したり引用したりする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、4年「自分の考えをもちながら読もう」(『大きな力を出す』『動いて、考えて、また動く』)において、考えと事例の関係を捉えて読み、自分の考えを書く学習を行ってきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 考えとその裏付けとなる事例があることに気づき、文章を読む際に用いることができるようになってきている。このような子どもたちが、指示する語句、接続する語句が文や段落の関係を示す手がかりになることに気づき、文章を読む際に用いることができるよう、④⑤段落のそれぞれを「しかし」「でも」の文で前後に分けた④⑤段落カードを用意する。
- ② 考えと事例があることに着目して文章を読むことができるようになってきている。このような子どもたちが、考えと事例の段落相互の關係に着目し、対比的な説明のよさを考えながら読むことができるよう、考えの段落と事例の段落を段落カードにしたものを操作して、段落相互の關係を話し合う活動を設定する。
- ③ 筆者の考えや体験したことに対する自分の考えをもつという目的に応じて、考えと事例に着目し、進んで文章を読んできている。このような子どもたちが、事物を比べながら説明するという目的に応じて対比的な説明に着目し、進んで文章を読むことができるよう、身近なものの中から二つの事物を対比的な説明を用いて二つの事物を紹介する「比べる紹介文」を書く活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習(5/8時間目)

- 1 ねらい ④⑤⑥段落で、長所と短所を対比的に説明していることのよさを話し合うことを通して、

考えと事例の段落相互の関係に気付くことができる。

- 2 準備 ④⑤段落カード（「しかし」「でも」で前後半を分けたもの） ⑥段落カード 学習プリント ⑥段落の一部を書き換えたリライト文
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比して説明すると、二つのことが比べやすくなって違いがはっきり分かるね。 ・アップとルーズの対比は前よりも複雑だぞ。こういう場合もよさがあるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対比の意味や特徴を想起できるよう、前時の学習プリントを見直すよう促す。 ○対比的な説明のよさについて問題意識をもてるよう、④⑤⑥段落の中で対比されている内容を問いかける。
<p>めあて「対比に気を付けて④⑤⑥段落を読み、考えと事例のつながり確かめよう」</p>	
<p>2 ④⑤⑥段落の対比的な説明のよさを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「試合終了直後～」のカードは、「ルーズでとると」とあるから、⑤段落の前半だね。 ・「しかし～」を④段落の後半に置いたのは、前に言ったのと逆の内容をつなぐ言葉だから、前半に置くのはおかしいからだよ。 ・④⑤段落は①②段落と違って、長所と短所も比べやすい書き方をしているね。 ・本当の⑥段落には、「伝えられないこと」という言葉もあるよ。リライト文は「目的におうじて」という言葉も抜けているね。 ・長所だけでも悪い説明ではないけど、筆者は「目的におうじて～切りかえ」と書いているから、短所もはっきり分かっていた方がアップとルーズのどちらを使うかを選びやすいのではないかな。 ・事例の段落では、長所だけでなく短所も書いてあることで、筆者の伝えたい考えがより納得できるものになるのだね。 <p>3 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えと事例の段落がはっきりとつながっていることが分かったよ。「比べる説明文」を書く時に生かせそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えと事例の段落相互の関係に気付けるよう、学習プリントの枠に④⑤⑥段落のカードを当てはめるよう促す。 ○指示する語句、接続する語句に着目して④⑤⑥段落の内容を捉えられるよう、学習プリントの枠に当てはめた根拠を問いかける。 ○④⑤⑥段落の対比的な説明のよさを考えるきっかけとなるよう、①②③段落の対比的な説明との違いを問いかける。 ○長所と短所を対比的に説明していることのよさを考えられるよう、⑥段落と、⑥段落の一部を書き換えたリライト文との違いを問いかける。 ○長所と短所の両方を対比的に説明していることのよさに気付けるよう、筆者が④⑤段落で短所も述べている理由を問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">⑥段落とのつながりを根拠に、長所と短所の対比的な説明のよさを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント②></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の達成感や次時への課題を自覚できるよう、振り返りの視点「分かった（できた）こと」「考えたこと」「これから生かしたいこと」に沿って感想を書くよう促す。

指導と評価の計画（全8時間）

目標	二つの事物を対比的に説明する紹介文を書くという目的に応じて、事例の対比的な説明に着目しながら筆者の考えを捉えて読むこと。		
評価 規準	(①知識及び技能)事例によって筆者の考えに納得しやすくなることや、指示する語句や接続する語句が文や段落の関係を示す手掛かりになることを理解している。 (②思考力, 判断力, 表現力等)二つの事例を対比的に説明する紹介文を書くという目的に応じて、段落相互の關係に着目して、対比的な説明のよさを捉えている。 (③主体的に学習に取り組む態度)メディアにおける映像や写真の使い方に興味をもち、対比的な説明に着目して文章を読んだり書いたりしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか か む	1	○学校生活で複数のことを比較して話し合う場面における問題点について話し合い、『アップとルーズで伝える』を読んで、初発の感想を書く。	○文章構成や文章の内容に関わらせて感想をもてるよう、感想の視点「説明の仕方気付いたこと」「興味をもった内容」を提示する。
	1	○初発の感想や、「比べる紹介文」のモデルのよさについて話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題例：比べる説明のよさを見付け、『比べる紹介文』を書こう。	○対比的な説明のよさを見付けて紹介文を書くという学習の見通しをもてるよう、二つの事物を対比して説明した「比べる紹介文」のモデルを提示する。
ふ か め る	1	○教材文の文章構成を話し合う。	○内容のまとまりに着目しながら文章構成を捉えられるよう、三段構成の意味段落ごとの役割(話題提示, 説明, まとめ)を提示する。
	1	○①②③段落を読み、事例の対比的な説明を捉える。	○段落相互の関係を視覚的に捉えられるよう、操作して関係を表せる段落カードを用意する。
	1	○④⑤⑥段落を読み、事例の対比的な説明のよさを話し合う。(本時)	○対比的な説明を用いた事例の段落と、考えの段落とのつながりを考えるきっかけを得られるよう、⑥段落の一部を書き換えたリライト文を提示する。
	1	○⑦段落を読み、⑦段落と④⑤⑥段落の関係を話し合う。	○⑦段落があることのよさに気付くきっかけを得られるよう、⑦段落と④⑤⑥段落の関係を、段落カードを用いて図示する。
	1	○対比的な説明を用いて、「比べる紹介文」の下書きをする。	○長所と短所の両面を述べる対比的な説明に着目して、事例の段落を捉えられるよう、「つかむ」過程で提示した「比べる紹介文」の長所と短所を色分けして提示する。
ふ り か え る	1	○「比べる紹介文」の清書をし、友達と読み合って、単元の学習の振り返りをする。	○対比的な説明のよさを実感できるよう、「比べる紹介文」を読む際の視点「二つの事例の長所と短所」を提示する。
			評価項目<評価方法(観点)>
			◇文章構成や文章の内容に関わらせて感想を記述している。 <ノート③>
			◇対比的な説明への必要感について、感想を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
			◇文章内容を手がかりに文章全体を三段構成に分けている。 <学習プリント①>
			◇①②段落がアップとルーズの事例を対比的に説明し、それらを受けて③段落の問いが示されていることを発言したり段落カードで表したりしている。 <発言・段落カード②>
			◇長所と短所の両方を対比的に説明していることのよさを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
			◇⑦段落があることのよさを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
			◇二つの事例について、それぞれ段落の前半に長所、後半に短所、事例の段落の後に考えという構成で、下書きを書いている。 <学習プリント②>
			◇友達「比べる紹介文」から捉えた二つの事例の長所と短所や、対比的な説明のよさを、友達に伝えたり記述したりしている。<発言・ノート③>